



# 千葉県災害時学校支援チーム

文部科学省 最終報告会

～令和8年2月25日～

千葉県教育庁企画管理部教育総務課危機管理班

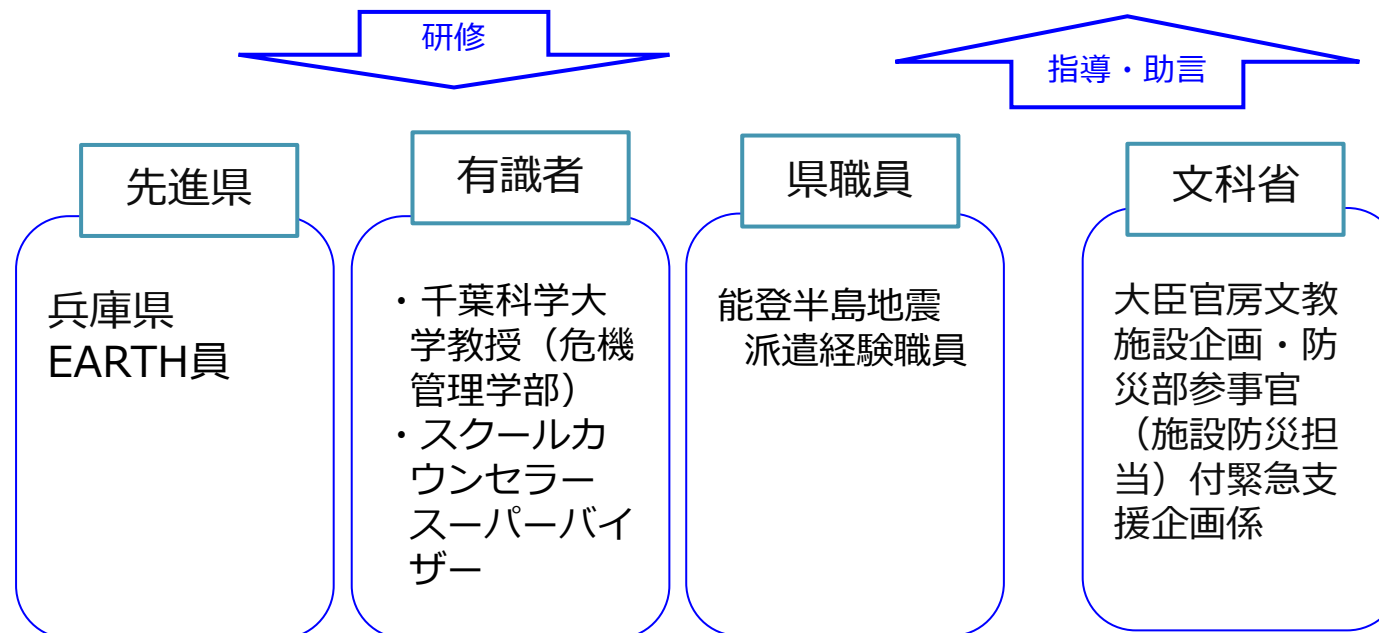
## 【学校支援チームの目的】

- ・被災した学校の学びの継続や早期再開に向けた支援。
  - ・児童生徒等の学習支援や心のケア。
- ※国や被災自治体からの要請に対して、速やかに学校支援チームを派遣。  
※県内での災害において支援が必要なことが明らかな場合など、積極的に支援。

## 【事務局、チーム員の体制】

事務局：千葉県教育委員会教育総務課  
危機管理班（総合調整、研修企画）  
人事班（チーム員選定）

チーム員：千葉県教育委員会職員 80名  
指導主事、管理主事等  
※全員、教員籍



## 【これまでの取組】

- 令和7年4月～5月  
第1回災害時学校支援チーム支援員研修（オンデマンド）
- 6月 管理職対象の研修での講師（事務局職員）  
D-EST、支援チームの周知
- 7月 第2回災害時学校支援チーム支援員研修（Zoom）
- 7月～8月  
教職員等対象の研修での講師（事務局職員）  
D-EST、支援チームの周知
- 12月～令和8年1月  
第3回災害時学校支援チーム支援員研修（オンデマンド）
- 1月 教職員対象の研修での講師（事務局職員）
- 2月 ハンドブック完成

# 報告① 学校支援チームの意義や効果の周知について

## ○事務局による周知

- ・ 6月 管理職対象の研修での周知 } 校長、副校長、教頭
- ・ 7～8月 教職員等対象の研修での周知 } 校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、指導主事
- ・ 1月 教職員等対象の研修での周知 } 主幹教諭、養護教諭、教諭、指導主事等

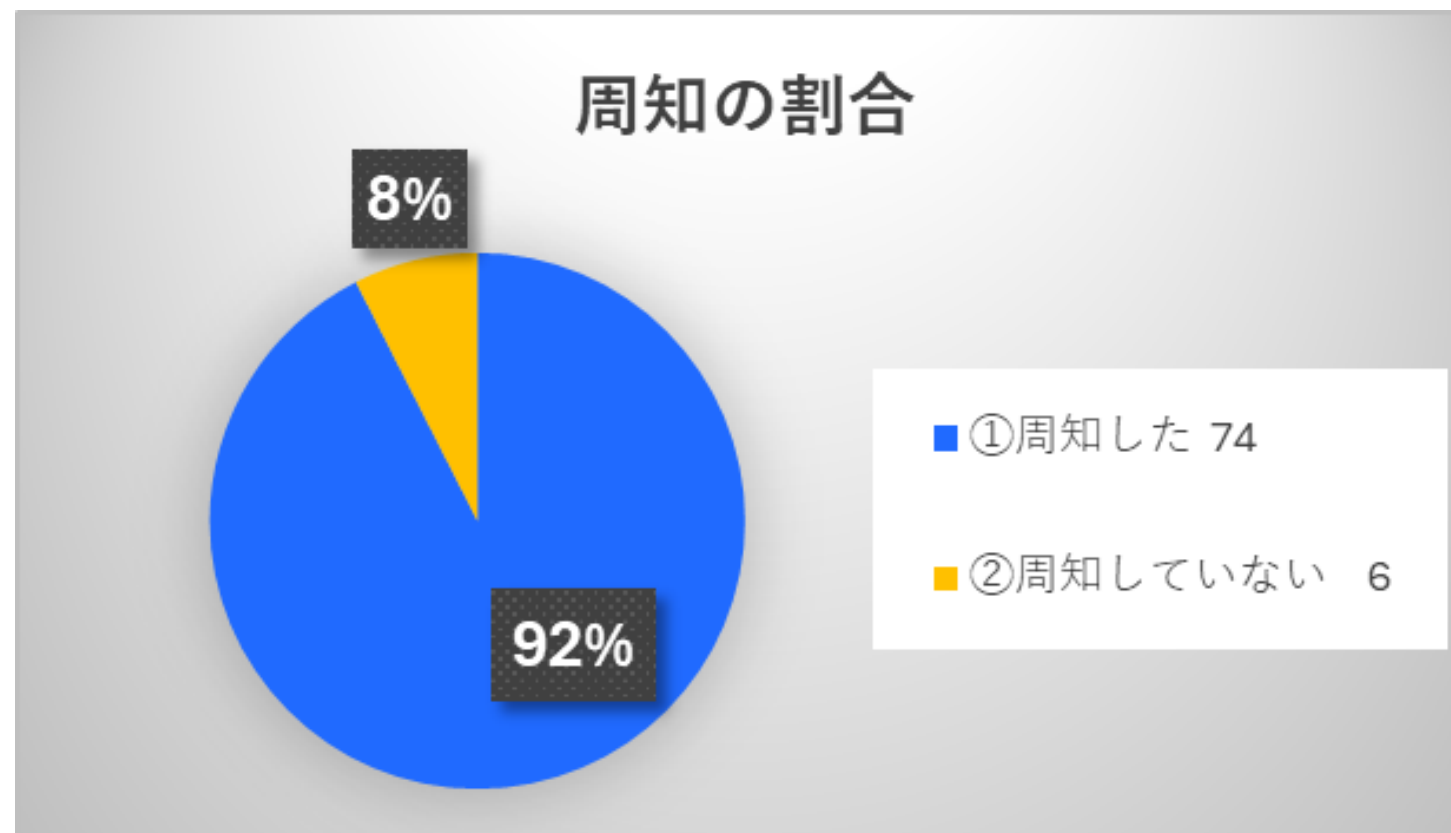


# 報告① 学校支援チームの意義や効果の周知について

## ○チーム員による周知

研修後などに各所属で周知

【チーム員による各所属で周知の割合】

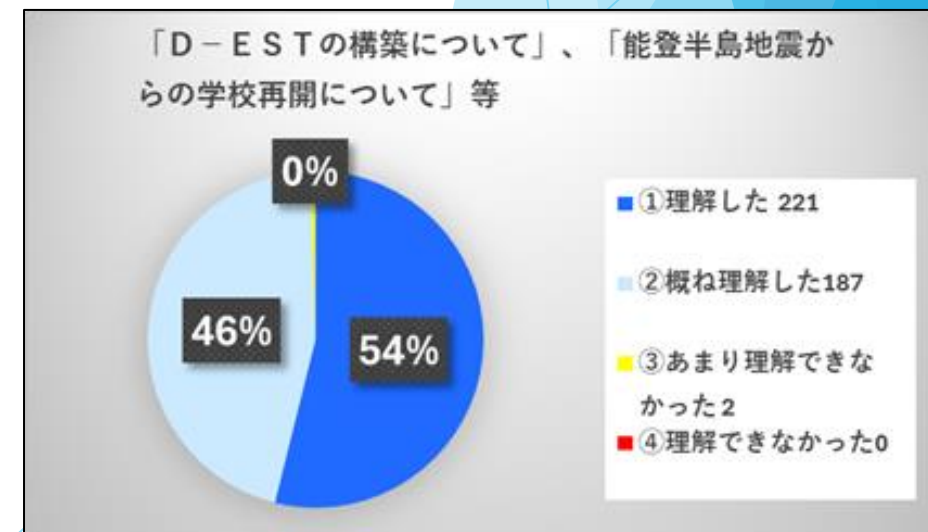


# 報告② 学校支援チームの員の養成、資質向上、その成果の共有について

## 研修① オンデマンドによる研修

「能登半島地震を踏まえた学校再開のための対策について」

- ・ 被災地学び支援派遣等枠組み（D-EST）の構築などについて
- ・ 能登半島地震からの学校再開
- ・ EARTH員になるまで～そして被災地派遣へ～
- ・ 大規模災害発生に備えた熊本県の取組と能登半島地震等への支援



※研修後のアンケート

# 報告② 学校支援チームの員の養成、資質向上、その成果の共有について

## 研修②Zoomでの研修

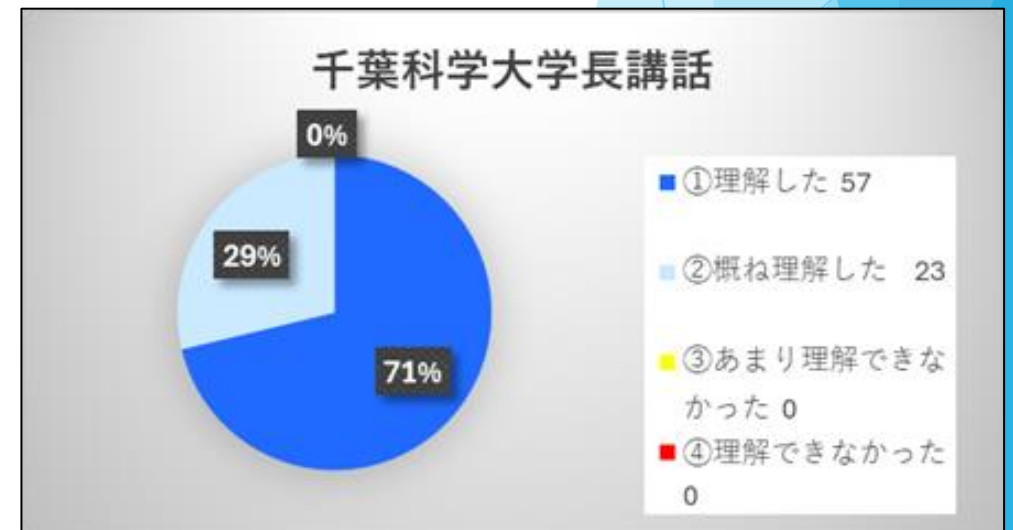
「災害から命を守り、教育を止めないー学校における事前防災、災害対応、事業継続ー」

千葉科学大学 学長 藤本 一雄 氏

目次
01 事前防災 Risk Management
02 災害対応(危機管理) Crisis Management
03 事業継続 Business Continuity Management

### まとめ

- 自然災害から児童・生徒、教職員の命を守り、教育を止めないためには、各学校において事前防災(リスクマネジメント)、災害対応(クライシスマネジメント)、事業継続(事業継続マネジメント)に取り組む必要がある。
  - リスクマネジメント：目的(資産)→災害(脅威)→対策(脆弱性の発見・解消)、PDCAサイクル×最善追求
  - クライシスマネジメント：OODAループ×最悪回避
  - 事業継続マネジメント：主要業務→優先業務→必要不可欠な資源(リソース)



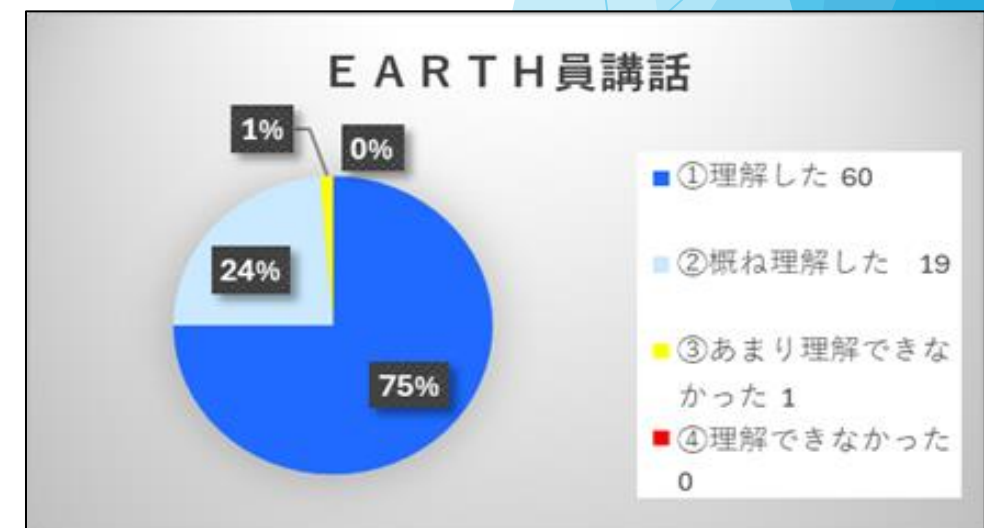
※研修後のアンケート

# 報告② 学校支援チームの員の養成、資質向上、その成果の共有について

## 研修②Zoomでの研修

「支援活動を経験して感じたこと」

兵庫県教育委員会震災・学校支援チーム(EARTH)員  
丹波市立柏原中学校 教諭 池本 孝之 氏



※研修後のアンケート

# 報告② 学校支援チームの員の養成、資質向上、その成果の共有について

## 研修②Zoomでの研修

「災害時の子ども心のケア」

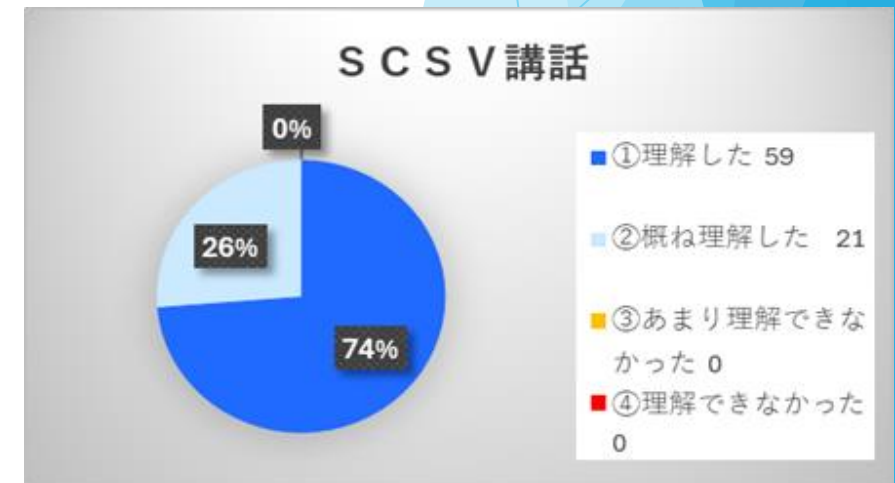
千葉県スクールカウンセラースーパーバイザー 森 真琴 氏

### 支援で大切なのは

安心・安全をとりもどす  
自己効力感をとりもどす

生活基盤が整うこと  
必要としている具体的な支援・情報の提供

日常をとりもどす  
遊びの場・学びの場



※研修後のアンケート

# 報告② 学校支援チームの員の養成、資質向上、その成果の共有について

## 研修③ オンデマンドによる研修

「令和6年能登半島地震に係る学校教育活動の支援」  
～衛生指導について～

君津市立上総小櫃中学校 教頭 佐久間 亮成 氏

### 2 衛生指導の業務内容

◇集団避難先への派遣支援

(1) 学習指導（昼間）  
\*実際に授業を行う。

(2) 衛生指導（昼間）  
\*感染症対応等。

(3) 生活指導（夜間）  
\*夜間の生活指導を行う。



### 4 派遣支援を振り返って

◇短期での対応の難しさ

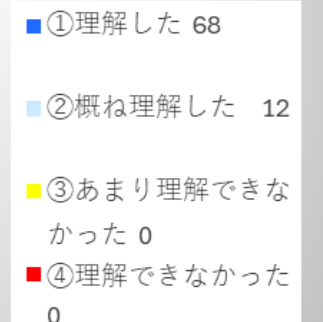
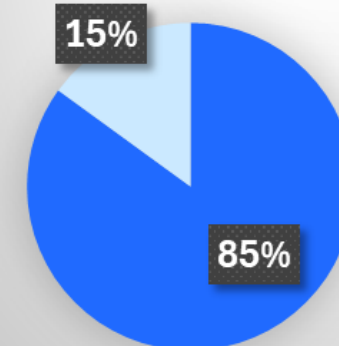
- \*業務に慣れた頃に派遣終了
- \*生徒・先生方との人間関係づくり

◇情報共有の大切さ

- \*現地での情報共有
- \*事前に都道府県の垣根を越えた情報共有を



### 能登半島支援講話①



# 報告② 学校支援チームの員の養成、資質向上、その成果の共有について

## 研修③ オンデマンドによる研修

「令和6年能登半島地震に係る学校教育活動の支援」  
～学習指導について～

横芝光町立横芝中学校 教頭 稗田 充 氏

- 2 支援の対象
  - 輪島中学校3年生
  - 輪島中学校1,2年生  
→「白山ろく少年自然の家」
  - 東陽中学校1,2年生  
→白山市内の学校で学習

- 3 支援の内容
  - 学習支援**

支援者の控室として利用  
「創作実習室」

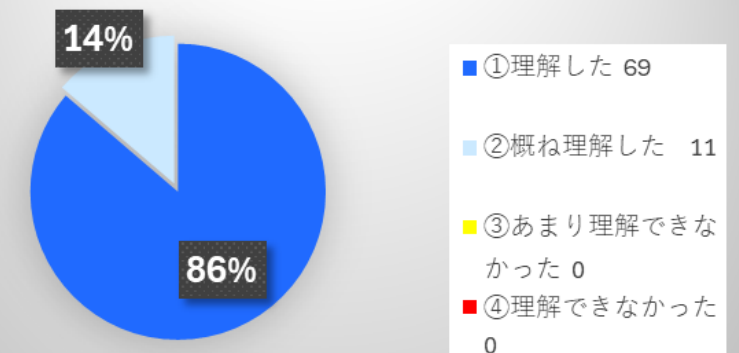


石川県立白山青年の家 HP より



黒板に予定が記入してある。

能登半島支援講話②



※研修後のアンケート

## 報告② 学校支援チームの員の養成、資質向上、その成果の共有について

### 【成果の共有】

#### ○研修後のチーム員からの声

- ・私の所属からも2名が石川県に派遣され、派遣後に職員に対して報告会を行ってくれた。災害が起こらないことを祈りつつ、有事の際は研修を役に立てるようにしたい。
- ・大規模災害発生時において、大変困難な状況の中で学校再開に向けた各自治体の取組事例や、児童生徒の心のケアに対する取組の様子を知ることができ、災害時学校支援チームの重要性を改めて考えることができた。
- ・全体を通して非常に有益な研修だった。特に、兵庫県震災・学校支援チームの先生による、ご経験に基づいた具体的な講話は大変参考になった。
- ・Teamsを活用した後方支援や引き継ぎの仕組み、現地での5日間の活動内容、震災後の各段階における学校や地域の状況など、いずれも丁寧かつ分かりやすくご説明いただき、D-ESTの活動について具体的なイメージを持つことができた。

## 報告② 学校支援チームの員の養成、資質向上、その成果の共有について

### 【成果の共有】

#### ○研修後のチーム員からの声

- ・大変勉強になった。学校現場に戻った際に、実行できるようにしていくとともに、周囲にも伝え、組織的な対応につなげていこうと思う。
- ・業務内容がとても具体的で、これからどのような準備をすれば良いのか少しわかった。青森で大きな地震も起きているので、色々なことに対してアンテナ高くしておきたい。
- ・災害時学校支援チームの活動内容が見えてきた。東北地方で地震があり、また首都直下型地震発生時の被害想定が公表され、大規模災害はいつ起こってもおかしくない状況にあると危機感をもっている。日頃から派遣になった時のことを想定しておきたいと思う。

# 報告② 学校支援チームの員の養成、資質向上、その成果の共有について

## 【成果の共有】

○ハンドブック (全94ページ)



### はじめに

地震や豪雨などの自然災害につきましては、東日本大震災や能登半島地震、また、令和元年房総半島台風や各地での豪雨災害など、毎年のように発生し、その規模も激甚化しており、防災体制の充実強化が求められています。

令和6年能登半島地震では、多くの方々が被災し、避難所生活を強いられることとなりました。千葉県では職員を被災地に派遣し避難所運営等を支援したほか、県教育委員会においても文部科学省の依頼に基づき、職員を延べ6名派遣し、石川県教育委員会の方々と協力しながら、避難所における中学生の学習支援などを行いました。これらの支援活動を通じ、大規模災害時の広域的な支援体制の重要性を改めて認識したところです。

このような中、県教育委員会では、被災地の子供たちの学びの確保に係る支援を速やかに行うため、令和7年度から、「災害時学校支援チーム」いわゆる「千葉県版 D-EST」を設置するに至りました。

支援チームの目的は、大規模災害等の発生時に、被災地の学校の早期再開や学びの継続に向けた支援、児童生徒等の心のケアなどを行います。また、県内での災害において支援が必要なことが明らかな場合などには、被災地からの要請がなくても積極的に派遣し、被災地域の学校等を支援していきます。

このハンドブックは、支援チームの先進県である兵庫県、熊本県、岡山県発行のハンドブック等を参考に作成しています。チーム員の皆さまにおかれましては、平時のうちに読み込んでいただくことはもとより、派遣先で再確認をしていただくようお願いいたします。

災害支援に携わる関係者の皆さまが、このハンドブックを有効に活用し、被災地の学校への支援活動や地域の防災拠点である学校の防災体制の充実積極的に取り組むとともに、「ちばの防災教育」のさらなる充実が図られることを願っています。

令和8年1月

千葉県教育委員会教育長 杉野 可愛

## 報告③ 全国の各自治体に対して参考ポイントについて

### 参考ポイント1

#### オンデマンドによる研修

- ・ 県内が広く、各地にチーム員がいるため一度に会さなくても研修が実施できる。
- ・ いつでも閲覧することができるため、振り返り等でも活用できる。

### 参考ポイント2

#### 専門家による研修

- ・ その道に秀でた専門家にご教授いただくことで、より高い知見を得ることが期待できる。



## 今後の展開

○ハンドブック配付

○次年度のチーム員選定

○研修内容検討  
実践研修等

(2年目となり、基礎研修に加え実技を  
交えた研修など、内容の工夫が必要)